

古来、花は日常の悲喜こもごもの場面で、私たちの身近な生活を彩ってきました。同時に、移りゆく季節とともに見せる多彩な花の表情に、人々の心は慰められ、魅了されてきました。

特に作家たちにとって、姿の美しさだけでなく、生命の輝き、儚さをも感じさせる花は、いつの時代も創作の源泉となる主要なモチーフの1つであるといえるでしょう。

今回の展示では、花を描いた江戸から昭和までの作品15点をご紹介します。主題として単独に描かれたものだけでなく、昆虫や鳥、太湖石などと花を組み合わせたものや、中国文化の影響から花や組み合わせに寓意を含むもの、当時流行りの花と狂歌をとりあわせたもの、多種多様な花を装飾的に配したもの、あるがままを観察し対象の本質に迫ろうとするものなど、様々な表現がされています。展示室に咲き乱れる花々をご堪能ください。

No.	作者名	作品名	制作年	技法材質・形状	寸法(縦×横cm)	備考
1	銭永	墨梅図	中国・明時代	紙本墨画・軸装	101.5×34.8	戸方庵井上コレクション
2	作者不詳	草虫図	中国・明時代	絹本着色・軸装	108.8×53.0	戸方庵井上コレクション
3	伝尾形光琳	藤図	江戸時代	紙本着色・軸装	121.5×51.2	戸方庵井上コレクション
4	高芙蓉	花鳥図	宝暦12(1762)年	絹本着色・軸装	89.4×31.5	戸方庵井上コレクション
5	窪俊満	朝顔図	江戸時代	絹本着色・軸装	92.6×31.1	戸方庵井上コレクション
6	高橋草坪	花鳥図	天保3(1832)年	紙本墨画淡彩・軸装	133.7×58.7	
7	田崎草雲	菊花湖石図	明治時代	紙本墨画・軸装	137.2×30.7	清木真敏氏寄贈
8	儀部草丘	花鳥図屏風	昭和10(1935)年	紙本着色・ 幀装(六曲一隻屏風)	155.0×335.0	大森暢久氏寄贈
9	福田元子	つつじ(1)	昭和11(1936)年	紙本淡彩、墨・額装	67.5×135.8	福田元子資料
10	福田元子	つつじ(2)	昭和11(1936)年	紙本淡彩、墨・額装	67.5×135.8	福田元子資料
11	福田元子	木蓮	昭和12(1937)年頃	絹本着色・ 幀装(四曲一隻屏風)	193.3×356.8cm	
12	田中青坪	春苑	昭和23(1948)年	紙本金地着色・ 幀装(二曲一隻屏風)	163.7×165.8cm	
13	高橋光輝	カンナ	昭和25(1950)年	紙本着色・額装	185.0×150.0cm	作者寄贈
14	四方田草炎	牡丹	昭和時代	墨、鉛筆、紙、額装	132.3×123.8cm	
15	高橋常雄	罌粟	昭和時代	紙本着色・額装	89.7×64.2cm	寄託作品

*作品保護のため、会場内の温度、湿度、および照度を調整して展示しています。
また、都合により展示作品を変更する場合がございます。ご了承ください。

【次回予告】「院展ゆかりの画家たち」8月2日(火)～8月28日(日)

日本美術院ゆかりの画家たちの多彩な作品と新収蔵作品である前田青邨《晩秋》をご紹介します。